

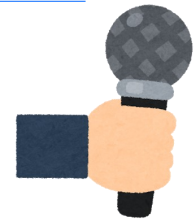
総合情報メディアセンターNEWS

2021年1月

第12巻 第4号

メディアセンター座談会

～総合情報メディアセンターのこれまでとこれから～



附属図書館、総合情報処理センターを統合・改組し、総合情報メディアセンターとして生まれ変わってから早15年が経ちました。様々な時代の変化とともに歩んできたこのメディアセンターについて、今回、田中麻里センター長(以下、田中)と多胡和泉副課長(以下、多胡)をお迎えし、総合情報メディアセンターのこれまでとこれからについて語っていただきました！このインタビューもコロナ禍ということもありオンラインでのインタビューとなりました。(インタビュワー 浜元 信州)

—現在の総合情報メディアセンターをアピールしていただけますか？

田中：メディアセンターは、学術情報基盤の提供を通して、本学の教育・研究・社会貢献活動を支えることを理念としています。特に大学の情報基盤は非常に重要です。昨年のSINET群馬ノードのネットワーク障害では、メールが一時的に利用できなくなるなどの影響がありましたが、NIIとも連携、協力して再発防止策を講じるなど、ネットワークが不備なく、止まることないよう情報基盤のスタッフ・教職員が日々真摯に仕事に取り組んでいます。また、大学全体の情報セキュリティの向上を図るため、大学1年生全員に情報倫理の講義を行うとともに、教職員向けに情報セキュリティ講習を実施しており、その受講率は100%です。ネットワークを管理する側も利用する側も細心の注意をして利用できているのではないかと考えます。これからもインシデントを未然に防ぐこと、そして、起こっても被害を最小限に食い止められるよう取り組みを継続していきたいと考えますので、ご協力をお願いいたします。

図書館部門では知を共有し、創出することに取り組んでいます。図書のリクエストや選書ツアーを開催し、電子ジャーナルやデータベースをはじめとする学習・研究支援ツールを提供しています。さらに、大学や図書館が保有する貴重な資料を公開する企画展示も毎年開催しています。群馬には上毛かるたをはじめとする郷土かるたが多くあり、全国の郷土かるたと合わせて270種類を寄贈していただき、これらのデジタルアーカイブ化に取り組んでいます。旧新田男爵家が所蔵していた古文書や粉本の紹介、群馬県の古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展を開催しています。5回目となる今年の尾崎展では、初めての試みとして、大学生1年生が尾崎先生の業績を紹介する資料を作成してくれました。尾崎先生ってどんな人、尾崎研究室でどんな調査をしていたのかが分かる動画もありますので、ぜひ、総合情報メディアセンターHPからご覧ください。

—今年一年は新型コロナウイルス対策等で通常とは異なる一年だったと思いますが、メディアセンターでの対策や対応を振り返って感想などを教えてください。

田中：オンライン授業の開始に伴いMoodleのスペック増強、学外からも学内にいるのと同じようなPC環境を提供できるようSSL-VPNサービス拡大、学務部や数理データ科学教育研究センターと協力して情報基盤を整えました。図書館は春に一度休館しましたが、知の基盤ですので、その後は対策しながら開館を続けています。

多胡：入構制限があったので当たり前ですが、学生が入館してこないこと自体が不思議な感じでした。完全予約制での利用や席を指定して利用してもらうことが初めてで、どうなっていくことだろうと心配をしていましたが、学生の皆さんが受け入れてくれて助かりました。秋から12月にかけて夜間開館も徐々に増やしてきましたが、コロナの第三波が来てしまい、再度利用を制限せざるを得なくなってしまいました。早く収束して通常利用できるようになってほしいと思います。

(2ページ目へ続く)

—センター長として6年目になりますが、これまでの振り返りをお願いします。

田中：最も力を入れていたことは、図書館を何か新しいものやこと、人に出会える場とすること、コミュニケーションの場とすることです。そのため、1年目に中央図書館にギャラリーを作り、学内外の方に利用していただきました。これまで教職員の方々の書道展、卒業制作の展示、サークル活動などでの学生さんの作品展示、学外の方や学外機関の資料展示などを行ってきました。また、貴重資料を全て一度は公開したいと考えてきました。京都大学名誉教授の哲学者・田辺元先生から寄贈された田辺文庫を紹介するセミナーを開催し、その後、研究資料として活用いただくことにつながりました。新田文庫、師範学校時代の資料、郷土かるたなどの展示を行いました。かるた展は首都圏ニュースでも紹介いただき、来場された方から郷土かるたを寄贈頂くことにつながりました。県立歴史博物館や県立図書館など学外機関と共同で行う企画展示も増えてきています。メディアセンターが文化・情報の発信基地としての役割を強化し、大学と地域の方々との接点となることを考えてきました。運営委員の先生や職員さんからの立案・企画も多く感謝しています。

情報基盤の面からは、情報に強くない教職員の方々にも最新のサイバー攻撃や気をつけることを分かりやすくお伝えし、取り組んでもらえるような情報セキュリティ講習を行いたいと考えてきました。

—図書館部門に長く勤務されている多胡さんの印象深い出来事についてお聞かせください。

多胡：数か所の図書館改修工事に携わったことでしょうか。特に中央図書館は、蔵書数も多いですし、面積も広がったので大変でした。リニューアルオープンに間に合わないかもしれないという中で、「とにかく予定された日にはオープンさせるんだ！」という気持ちで、常勤・非常勤問わず、みんなで一丸となって取り組むことができたいい仕事でした。

—最後に、今後のメディアセンターに期待することを教えてください。

田中：これからも図書館が新しものやことに出会える知を創出する場であることを期待します。大学が保有する貴重な資料を展示できる空間、そこで交流が生まれる空間ができることを願っています。また、大学の根幹を支える情報基盤や環境がユーザにとって使いやすいものであることを望みます。

多胡：常々思っているのですが、図書館には多くの貴重資料があるのに、知られていないのはもったいないことです。一般の方には大学の図書館は敷居が高いと思いますが、かるたをきっかけにして、他の資料もWebで公開していき、もっと多くの人に知ってもらえるようデジタル化が進んでほしいと思います。そして、大学に来なくても図書館のことを知ってもらえる機会が増えてほしいと思っています。



「防災」に関する図書を展示しています（1/5～3/11）

—理工学図書館—

東日本大震災から2021年で10年の節目となります。当時は突然の大災害に戸惑った方も多いのではないのでしょうか。直接影響がなかった方でも、いつ自分が当事者となるか分かりません。いざという時の為に防災を今一度考えてみませんか。

今回展示では過去の災害を学ぶことはもちろん、今からでもすぐに準備しておきたい自治体の緊急速報メールや防災チェックリス

トなども展示します。日頃から準備しておきたい備蓄品や、事前に試してみたいベランダでできるソーラーパネル、在宅避難中の食事など新たな発見があるかもしれません。

今までも何とかなってきたし、自分には影響ないだう・・・ではなく、この機会に防災準備をしてみませんか。

(理工学図書館 森山沙織)



「令和2年度群馬大学書道部 新春書道展」を開催します —中央図書館—

中央図書館ギャラリーにて、書道部学生及び指導教員永由徳夫教授の作品展を1月下旬に開催予定です。活動や発表の場が制限される中で制作された、8名の部員の皆さんと永由教授の静かで熱い想いの込められた作品が並びます。会場は学内者のみの限定公開となりますが、ぜひご覧ください。

また、部員学生によるオンライ

ンの展示解説動画も本学公式YouTubeチャンネルにて公開予定です。

(中央図書館 山内可菜)



改修工事中です (～3/31)

医学図書館では、1月6日から空調・換気設備の改修工事が始まりました。

1月中は3階のグループ学習室や会議室、東側書架の工事を行い、2月は国家試験月のため休工となります。3月から1階の事務室等の工事を行います。詳細はホームページや館内掲示でご確認ください

い。3階工事中、東側書架は立入禁止となりますが、集密書庫とトイレは利用できます。工事中に3階へ行く場合は足元や安全に気を付けてご利用ください。工事中は騒音や振動の発生が想定されますが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

—医学図書館—

<https://www.media.gunma-u.ac.jp/announce/2020/mlib/2021010600.html>



(医学図書館 飯塚愛)

特別展示「群馬県の古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展Part5」を開催しました (12/2～1/8) —中央図書館—



て県内300以上の発掘調査を行い群馬の古墳研究の礎を築いた研究者です。膨大な出土品や調査記録が本学共同教育学部に保管されており、平成28(2016)年度から毎年、群馬県立歴史博物館のご協力のもと、尾崎博士の古墳調査研究を紹介する企画展示を行ってまいりましたが、今年度はコロナ禍のため展示会場は学内限定公開となりました。

そこで今回は、新しい試みとして、尾崎博士を全く知らなかった本学1年生が授業教材として尾崎博士や県内古墳を調べ制作した解説書や動画などをWeb公開しました(1月末には制作したトランプも公開予定)。また、尾崎研究室で学ばれた、歴博特別館長の右島和夫氏、本学教育学部同窓会会長の清水和夫氏に、尾崎博士の人柄や発掘当時のエピソードを語っていただいた動画も配信しています。

会場に足を運ばなかった方も、ぜひWebコンテンツを通じて、全国に誇る「東国文化」研究の一端を担ってきた尾崎博士の群馬県考古学研究における功績を知っていただければと思います。Webコンテンツは展示終了後も総合情報メディアセンターHPからご覧いただけます。(動画は本学公式YouTubeチャンネルにて配信しています。)

<https://www.media.gunma-u.ac.jp/announce/2020/clib/2020113000.html>



(中央図書館 山内可菜)

12月2日～1月8日まで、中央図書館ギャラリーにて「群馬県の古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展Part5」を開催しました。

尾崎喜左雄博士(本学名誉教授)は、昭和20～40年代にかけ

新型コロナウイルス対策フェアを再延長します

—医学図書館—

これまで以上の流行によって医療のひっ迫が危惧されており、院内感染のコントロールがさらに重要になっている現状を受け、医学図書館では1階ブラウジングで開催中の「新型コロナウイルス対策フェア」を2月26日（金）まで再延長します。感染症の歴史や感染対策、新型コロナウイルスのこれまでについて情報を集め、知識を身につけるために役立つ本が揃っています。ぜひご覧いただき、電子ブックも併せてご利用ください。また、このフェアの企画発案をされました、医学研究科准教授の村上徹先生から、展示中のおすすめ図書についてコメントをいただきましたのでご紹介します。

1. 『新型コロナウイルスの真実』岩田健太郎 著（ベストセラーズ、2020）

岩田健太郎氏（神戸大学教授）は、感染症医として、ニューヨークの炭疽菌テロ、北京のSARS、アフリカのエボラ出血熱の臨床を経験した。著作が多数あり、SNSにも積極的に発信している。新型コロナウイルスの感染が広がっていたクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号に乗り込み、船内の状況をルポする動画をYouTubeに公開し、センセーショナルに。本書で



はそれをありのままに描き、執筆時までにはわかっていた新型コロナウイルスの知見をまとめる。

2. 『感染対策40の鉄則』坂本史衣 著（医学書院、2016）

坂本史衣氏（聖路加国際病院）は感染管理専門家で、新型コロナウイルス感染症患者をいち早く受け入れた聖路加国際病院での院内感染者ゼロを維持し、その様子がMBSの情熱大陸『院内感染をどう防ぐのか—「私が医療現場を守る…」』でも取り上げられた。SNSでも積極的に発信している。



3. 『コロナのせいにしてみよう。シャムズの話』國松淳和 著（金原出版、2020）

國松淳和氏（南多摩病院 総合内科）は、内科医で多数の著作があり編集者から鬼才とも称され、SNSでも積極的に発信している。



る。新型コロナウイルス感染症のまん延に端を発する心身の不具合を「シャムズ」（CIAMS；COVID-19/Coronavirus-induced altered mental status）と名付け、本書を書いた。（医学図書館 飯塚愛）

卒業生サービスについて

■図書館

開館時にはいつでも入館可能です。図書の閲覧に加え、本学で契約している電子ジャーナル、データベースのほとんどを館内から利用できます。「図書館利用証」の発行を受ければ、図書の貸出もできます。

なお、お近くの公共図書館から本学図書館の本を借りることもできます。

※新型コロナウイルス感染症により、利用可能サービスが通常と異なるため、最新の情報はホームページをご確認ください。

■全学Gmail

卒業後もメールアドレスは変わりません。本学からのメールをお送りすることがありますので、引き続きご利用ください。

■マイクロソフト包括ライセンス

Office 365をご利用していた方は卒業後、直ちに利用できなくな

ります。その他のソフトは利用できますが、新規インストール・アップグレードはできません。

■トレンドマイクロ製品

卒業後は利用できなくなりません。直ちにアンインストールしてください。



群馬大学総合情報メディアセンター



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

荒牧地区：前橋市荒牧町4-2
昭和地区：前橋市昭和町3-39-22
桐生地区：桐生市天神町1-5-1

TEL (027)220-7170
FAX (027)220-7184



本コンテンツは、クリエイティブ・コモンズの表示-改変禁止 3.0 ライセンスのもとでライセンスされています。

Webサイト <https://www.media.gunma-u.ac.jp/>

図書館ブログ <https://blog.media.gunma-u.ac.jp/>

Twitter公式アカウント [@Media_Gundai](https://twitter.com/Media_Gundai)